視覚障害の方への支援

眼球、視神経または大脳視中枢等の視覚系のいずれかに障害があるために、見ることが不自由または不可能な状態をいいます。
視力障害と視野障害があり、その両方が重複する場合もあります。

おもな症状と分類

全盲・盲	障害等級1-2級	見えない、ほとんど見えない (視覚的な情報が得られない)
弱視	障害等級2-6級	見えにくい (保有する視力の範囲内で複合的に情報を得る)

視野狭窄	見える範囲が狭い。視野の一部が欠損している。 視野の中心部が見えない(中心暗転)
光覚障害	光を非常にまぶしく感じる。暗いところになると 見えなくなる(夜盲)。明るいと見えにくくなる。
色覚障害	色の区別がつきづらい。 特定の色が別の色に見える。

困難なポイントと支援例

教科書、プリント、スライドや 板書等の読み取りが難しい	•資料のテキストデータ化 (音声読み上げソフト等で読み込むため)※ •試験問題•回答用紙の拡大印刷 (1.4倍印刷が一般的) •拡大読書機/ルーペ/PC等の支援機器の使用や貸出 •録音を許可する
筆記形式の課題を こなすのが難しい	•用紙等の拡大 •提出形式の変更
試験の回答に時間がかかる	•別室受験 •試験時間の延長(1.3-1.5倍)
慣れない場所での 移動が難しい	•移動介助者の配置(ガイドヘルプ) •点字ブロック敷設等の環境整備

※画面読み上げソフト、画面拡大ソフト等を利用する。
資料を早めに入手しなければならないため教員の理解と協力が大切です。